

大会名称: 第27回ユニバーシアード競技大会 バasketボール競技(女子)

開催場所: Miras Sports Complex

試合区分: No. 212 女子 予選ラウンド第2戦 コミッショナー:

期 日: 2013(H25)年7月9日(火)

主審: AYALA PEREZ Jose Juan (MEX)

開始時間: 12:30

副審: AL BULUSHI Ahmed (OMA) / GYORFFY Pal Attila (HUN)

終了時間: 14:11

チャイニーズ・タイペイ (通算2勝0敗)	○ 69	18 -1st- 16 17 -2nd- 14 14 -3rd- 17 20 -4th- 17 -OT1- -OT2- -OT3-	● 64	日本 (通算0勝2敗)
-------------------------	---------	---	---------	----------------

「第27回ユニバーシアード競技大会」女子は第2日目。女子ユニバーシアード日本代表チームの第2戦の相手は前回大会の準優勝チーム、チャイニーズ・タイペイ。開始早々、日本は#11篠崎の3Pシュートで先制するも、チャイニーズ・タイペイも#15HSIEHを起点に、ゴール下で得点を重ねる。日本は第1ピリオド終了間際に逆転を許すと、その後も一進一退の攻防を繰り広げ、試合が進む。第4ピリオド残り1分を切り、逆転を狙う日本は#10落合、#6栗原の3Pシュートで3点差まで追い上げるもそこまで。64-69で日本が敗れ、2連敗となった。

第1ピリオド、日本は積極的に前に走ると、開始11秒で#11篠崎の3Pシュートが決まり先制する。しかしすぐさまチャイニーズタイペイも、#5HSUの得点で返すと、センタープレイヤー#15HSIEHを起点に、ゴール下で攻め得点を挙げる。日本は、開始3分10秒、#9本多が速攻からバスケットカウントを沈めるなど、個々が得点を挙げリードする。だが残り4分10秒、チャイニーズ・タイペイ#15HSIEHに同点シュートを決められ10-10となると、残り1分13秒、再び#15HSIEHのゴール下シュートで10-12と逆転される。その後は点の取り合いとなり、16-18の2点ビハインドで終了。

第2ピリオド、日本はスターティングメンバーを大幅に変えて入ると、#7池内のスティールから#6栗原の3Pシュートが決まり、19-18と逆転に成功する。しかし対するチャイニーズタイペイも、ベンチメンバー#12HUANGがドリブルインで日本のファウルを誘い、フリースローで得点を重ねていく。その後、日本の#6栗原、#10落合の3連続3Pシュートを決めれば、チャイニーズ・タイペイも#15HSIEHで入れ返し、一進一退の攻防に。30-35、日本5点ビハインドで前半を終了。

第3ピリオド、日本は開始早々に#9本多が3Pシュートを決め2点差に詰め寄せると、その後も#8伊集がスピードを生かしてドリブル、#9本多のシュートと随所に良いプレイが展開され、いい流れをつくる。だがなかなか追いつくことが出来ず、我慢の時間帯となる。中盤、ディフェンスでフルコートマンツーマンプレス、2-3ゾーンディフェンスを仕掛け、相手のリズムを崩そうとするが、互いに譲らず、均衡した試合が続く。残り21秒、#11篠崎がバスケットカウントを沈めて47-47と追いつくが、最後、チャイニーズ・タイペイ#13LOにジャンプシュートをブザービーターで決められ、47-49と2点ビハインドで勝負の最終ピリオドへ。

第4ピリオド、逆転を目指す日本は、ディフェンスを多様化し、そこから本試合好調な#9本多のレイアップシュートで、51-51と再度同点に。だがすぐさまチャイニーズ・タイペイ#7HUANGに3Pシュートを返されると、力強いポストプレイで追加点を許す。残り2分14秒、56-63と7点差を追う日本は、プレッシャーディフェンスで相手のミスを誘うものの、チャイニーズ・タイペイは時間を使ってオフェンスを展開し、リードを保つ。残り1分を切り、逆転を狙う日本は#10落合、#6栗原の3Pシュートが決まり、残り22秒、64-67の3点差に。だが時間は進み、タイムアップ。64-69で敗れ、ベスト8入りをかけた試合での痛い敗戦となった。

予選ラウンド第3戦、日本は7月10日(水) 18:00(現地時間)よりウクライナと対戦する。